

6. 保育園の職務・役割分担

6-1

園長や主任の指示がどういう意図で出されているかわからないとき、あなたは質問をしたり意見を言ったりできますか。

職場は経営者の経営理念の基にそれぞれがその任務を果たして職場を形成し担っていくことと思います。保育園という場においても、園長、主任の指示に従って動くことが多くあります。その点は他の企業となんら変らない部分であり仕事の出発点であると言えるのではないかと思います。ですから積極的な姿勢で前向きに取り組むことが大切です。また、指示の内容を正確に把握し責任を持って取り組むことです。そしてその経過や結果を随時報告するということも忘れてはならないことだと思います。

しかし指示の内容によっては保育に関すること、保育以外の業務に関することなど様々で、保育士の年齢や経験年数、人間としての価値観の違いなどにより、その指示に対して疑問を持ったり、自分の考えとは反するものであったり、どのような意図で出されているのか判断しかねる、といったことも少なからずあると思います。そのような時に「こんなこともわからないのか、と思われなければならないだろうか」「こんなことを言って生意気だと思われなければならないだろうか」などといった思いや「よくわからないけれど指示に従っておけば問題ないだろう」といった考えで黙って従ってしまっでは、結果として判断が間違っていたり、レベルの低いものになってしまったりするでしょう。また指示の内容が保護者に関することであった場合には、納得できない思いが表れてしまい、対応がいい加減である、一貫性がないなど、保護者の信頼を失ってしまうことにもなりかねません。また、そのような受身的な考え方は様々な場面において主体的に考えることを失わせ、保育のマナーにもつながっていつてしまうのではないのでしょうか。

指示を出されたということは任されたということであると自覚し、その責任において指示の内容を理解することが大切であり、そのためには正直に質問や意見を述

べることが必要不可欠であると考えます。そして質問をする時には「この部分がわからなかったのですがもう一度説明していただけますか」「私は〇〇の様に考えるのですが、いかがでしょうか」など自分の考えを言葉にして述べるようにすることで、相手もより詳しく説明をしてくれることにつながっていくのではないのでしょうか。園長、主任はもとより、各層の保育士、様々な職種の職員と様々な意見を交換しあったり、話し合いを持てる機会を積み重ねていくことが職員間の信頼関係につながっていくと思います。

(海和)

6-2

園長や主任などと意見が合わないとき、十分に話し合ったうえで、あなたは上司の指示に従うことができますか。

保育園は子ども達の成長発達をしっかり見極め、各自に適切な配慮をしながら確かな心身の発達を遂げさせていくことが大きな役割です。これは園長であれ主任であれ保育士であれ保育園全体の願いであります。従って保育園がモットーとしている保育の根本的な理念をはじめ保育の方針等、保育経験が浅いうちは一概にその保育観が必ずしも園長や主任の保育観と同じというケースばかりではない場合もあります。経験豊富な保育士の場合は、保育現場での経験や、研修等で専門知識を深め自分の保育観に自信を持つことができるようになります。そして園長や主任との意見交換を行うことができるようになるものです。日々保育を進めるなかでたとえ意見が食い違ってしまった場合でも、相手を理解しようとする気持ちが芽生え他の意見や考え方を受け入れられる心の準備ができてくるものです。保育園を組織していくなかで上にたつ、つまり上司の考え方も様々ですからすんなりいかない場合もあると思いますが、保育園自体のあり方を問う前に自分で出来ることを考えて行動してみることが大切かと思います。保育経験が浅かったり又、経験があっても表現力が乏しかったり、消極的な場合は自分の思いをなかなか伝えられずに不安ばかりを募らせてしまいがちです。園長や主任と意見が食い違う、合わないということだけ

にとどまることなく勇気を出して、自分の思いをまずは丁寧につたえることが大切です。

「なぜそうなのか」「なぜだめなのか」を理解できるまで聞いてみる必要があります。

その結果最後まで食い違ってしまった、又、自分で納得がいかなかったという思いであれば、園長や主任の意見に従ってみる、つまり方向転換を試みることも良いと思います。自分の思いが正しかったのか間違っていたのか、熟慮に欠けていたのか、最終的にはわかるはずです。そして、園長や主任が主張するにはそれだけの理由があることも理解できるチャンスかもしれません。自分として決して譲れない事柄もあると思います。場合によっては自分の意見を抑えて従わなければならないときもあります。時と場合によって見極める力を学んでいくことも保育者として必要で大切なことと思います。

(海和)

6-3

登園を嫌がるが続くなど、問題を感じたとき、あなたは園長や主任、先輩保育士などにその原因や対策のしかたを相談していますか。

子どもに問題を感じた時、まずは、連絡帳などで家庭との連絡を取り、今の子どもが家庭での様子を聞いてみる必要があります。連絡帳には、保育士と、保護者とが間接的ですが、思いを伝えあうことができたり、援助をすることができるという面があります。そうした対応を通して、保育者と保護者の間に信頼関係がめばえ、応答を深めることによってそれをさらに強化できると思います。それと共に、保育園での子どもの様子も観察し、その子どもが何に対して不安をもっているのかを探ってみることも大切だと思います。その上で、先輩保育士に相談し、主任、園長にも、今、どんな問題が起きているかを報告します。

連絡帳だけでは問題解決につながるということがないと思います。もし解決することができない場合は、先輩保育士、主任、園長に相談した上で、職員会議などで

問題を提示し、他の保育士のいろいろな意見を聞き、取り入れるようにしたいと思っています。そのことで、自分だけでは考えることができなかった、今まで思いもしなかった新しい考えが生まれ、より良い援助をすることができるのではないかと思います。

もし、それでも改善がみられない場合は、直接保護者との話し合いを持つことを考えなければならないと思います。その時も先輩保育士に相談をしたり、主任、園長に保護者と連絡を取ることを報告し、意見を求めることが必要だと思います。その上で、保護者に面談のお願いをし、面談に到った経緯を伝え、理解を得て、話し合いを持つことが大切かと思っています。

クラスの一つの問題でも、保育士一人ひとりがしっかり把握し、自分のクラスだけではなく、保育園の保育士全員がどんな小さな問題でも、今起きていることを知り保育園全体で取り組み、共通理解をし認識することによって保育園のまとまりが生まれ、保護者、子ども達又職員同士の信頼関係も深まりより良い保育環境ができてくると思われます。

しかし、その中で注意したいことは、仕事上知りえた個人情報を、外部には口外してはいけないということです。保育園の中では個人情報を報告することもあります。守秘義務は保育園の職員として仕事をしていくうえで大切なことです。更に、このことは、職員として仕事を続ける場合に限らず、保育の仕事を離れても個人を守るべき事項にかかわる点においては守っていかなければならないこともあるということです。

(海和)

6-4

あなたは、職員会議で必要と思う質問や意見をはっきり発言することができますか。

保育園において行われる職員会議は、保育園を運営していくなかで大変重要な会議です。その内容も多様な形がありますが、子どもの成長を確実化することは保育園の経営の基を担うことから大きな会議の課題となります。職員会議は園内研修と

は異なり保育園全体という大きな枠の内での検討事項もありますので自分の意見を言えるようになるまでには時間を要することと思います。

職員会議といっても日頃職場で共に過ごしている仲間ですから、会議で、質問や意見を述べることは、自然に考えれば当たり前のことなのですが、保育にたずさわる人、人それぞれです。若い職員であればあるほど容易なことではないはずです。

保育現場はその日その時、瞬なる判断のもと、日々保育を実践し、生活をしている中で、不安や疑問といった壁に直面することは毎日のことであり、それを解決しないまま日々の保育を重ねていくということは、子ども達に対してマイナスになるだけでなく、自分の保育というものも広がっていくはずがありません。

質問や意見を述べることによって、その発言が時には一つの糸口となり、園全体で取り組む形へとつながったり、全職員の前で発言をすることが、他の職員の心をも動かし、そこからまた活発な意見の広がりを見出すこともあります。職員会議の場であるからこそ、どのような意見においても、全職員が耳を傾け意見を尊重し真剣に議論をしようことだと思います。発言の内容が皆な同じでなくても、それなりに又考えられる機会を得たり新たな発見につながったりと、それが全て職員一人ひとりの資質向上や職員同士の共感となり得ることです。

そして、意見を交わし議論することを常としてこそ向上があるものと思います。

人前で発言をするということは、勇気のいることです。ましてや会議の中でのことです。ですから、普段気を楽しにして話をしている状態と同じではなく、躊躇してしまうかもしれませんが、その一言が園全体の経営や運営の鍵を握ることになるかもしれません。そんな意味においてもどんどん質問や意見を述べていくことが大切です。

(海和)

6-5

職員会議等で自分の意見や考え方と違う結論が出たときも、それに従って気持ちよく実行できますか。

職員会議は各クラスの動き、園全体のことを理解し上司の考えを確認したり各職

員の現状を把握したりできる大切な場であり時間でもあります。会議にはベテランから若手の職員まで様々な年齢層と経験にも長短があつたりしますが、すべての職種の構成のもと行われます。従って一つのテーマにおいても人それぞれの保育観、人生観がありますから、いろいろの考え方、意見があることは当然のことと思います。

しかし、職員の目指す目標は皆同じ、より良い保育園にする、したいという思いがあるからこそその意見でもあります。たくさんの様々な意見の中から自分になかった考え方を聞き入れて学び、良い環境の保育園を作り、より良い保育を目ざしていくためと自覚することが必要と思います。たとえ自分とは違う結論になったとしても十分な話し合いを持ち、その論点を理解し自分でも納得した上で園運営を円滑に行うという気持ちになって、互いに協力していく姿勢を持つことが大切なのではないかと思います。

職員会議は、自分の意見を主張できる大切な場であると同時に自分の考えや思いを見直しよりよい保育につなげていくための場でもあります。その中で、同じ職場の中での気持ちや思いを統一し、互いを認め合える関係を作ることによって気持ちよく会議での結論を実行できるようになるのではないかと思います。そして、互いに気持ちよく実行していくことが、それぞれのセクションのなかでの保育を充実させていくことにつながっていくのではないかと思います。

個々に意見が違い思いもあることではありますが、要は子どもたちの成長を願うことが何よりも大事、そして、気持ちよく仕事を遂行していくことが目的を達成させる要因となることを考えて、職員会議で決定したことは、すみやかに実行に移していくことだと思います。

(海和)

6-6

栄養士など保育士以外の職種の人たちが保育にかかわるとき、その人たちへの気配りや協力関係に配慮するとともに、保育士としてのあなたの役割が何であるか理解していますか。

保育園は、保育園を構成する人材も保育の多様化に伴い、多方面にわたり力を発揮できる人材を必要とする時代です。主なる保育を進める職員は保育士ではありませんが、それだけでは保育業務は成り立ちません。保育園は経営の責任者である理事長をトップに、園長、主任保育士、保育士、看護師、保健師などの看護職、栄養士、調理師、事務職と様々な専門性を持ち合わせ役割を担い、成り立っています。

職員が、保育業務について共通理解をもち、協力体制の中で一人ひとりが、保育園という組織の一員としての自覚をもち、適切な役割分担がなされることにより保育園に求められる多様なニーズを望ましい方向に導き果たすことが可能となります。

子ども達の日常における家庭生活の環境の変化は、子どもの食生活にも大きく影響しています。朝食の欠食の増加や家族揃って食事をとる機会が年を追うごとに減少しています。食育基本法が制定され、食育の重要性が叫ばれています。

食事は、成長発達の基礎であると同時に他者への愛情や信頼関係をはぐくむ場であり、人間関係においても重要なものです。

保育士は、子どもを理解することに関する専門家として、栄養士や調理師等の給食担当者に子どもの様子、保育において目指しているものなどを伝えていくことが必要です。また給食担当者は、食の専門家としての知識を保育士に伝え、価値観を共有しながら常に子どもたちの心身の育ちにつながることを一緒に考え協力していくことが大切です。

皆な協力し子ども達を思う心が一致した時には、充実した保育ができると思います。多くの子どもは一日のなかの12時間～13時間の長時間、保育園で生活しています。健康でその子らしく成長・発達していけるような環境を、保育に関係する職員はつくっていく責任があります。保育士は発達の視点から又看護師や保健師は、保健の視点からそれぞれの専門性を持って保育を行っていきます。そのことにより、子ど

もにとってよりよい環境のなかで健全な心身の成長が遂げられると思います。更には専門性を生かすことで保育園の機能が強化されていくということも立証されることと思われます。

職員の基本的な姿勢としては、人間の育ちにかかわる仕事をする観点において、自分自身人間性や専門性を高めていくことが大切です。専門性の異なる者が、一緒に仕事をしていく場合に、お互いの専門性を生かし合えるような環境や、関係作りをすることによって、お互いの専門性を尊重し合い、大切な子どもとかかわるという共通の理解のもとに、又、互いの専門性が発揮できるようになると思います。

(海和)

6-7

あなたは保育士として、他の職種の職員やパートの人たちにどんな役割を果たしてほしいか、具体的な期待を持っていますか。

社会の変化、子どもの変化、家庭における育児力の格差によって生じる子ども達の発達の個人差、又気になる子どもの増加等、保育園に在園している子ども達にも大きな変化がみられます。従って保育園の保育は保育士以外の職員、それぞれの専門的なセクションを担い、職員全員が一致協力し保育全体を構築していかなければなりません。

それでは保育士以外の職種についての果たして欲しい具体的な役割を記してみました。(内容によっては家庭への直接的な指導も含めます。)

*** 看護師・・・日常の保育における保健活動として**

- ①子どもの健康状態の把握
- ②発育、発達状態の把握
- ③健康面からの授乳、食事などの進め方についての指示
 - ・ 疾病異常等に関する対応
 - (感染症、病気の子どもの保育、救急処置など)
 - ・ 保育園、家庭における保健衛生、事故防止、安全指導

- ・虐待等の調査
- ・健康診断、予防接種等の各園児の把握
- * 栄養士…・乳幼児の食育に関する活動として各年齢に合わせた献立（栄養面、見た目、食材など考えることです）
- 調理師
- ・離乳食児の把握、進め方について、保育士、家庭との連携で進めてアドバイスを行うこと
- ・母乳児の対応、（冷凍母乳）その取り扱いについて
- ・アレルギー児対策における食事づくり
- ・食中毒防止についての職員、家庭への直接的な指導
- ・楽しい食事づくりの研究
- * パート職員…・与えられた仕事を、責任を持って果たして欲しい
- ・職員との連携を積極的にとり、保育園の一員であることの自覚を持つ
- ・専門職であることの自覚を持つ

いろいろの職種がありますが、大切なことは保育士と連携を密にし、お互いの専門性を認め合い、子ども達にとってよりよい環境づくりをするという共通目的を持つことです。

（海和）

6-8

あなたは、欠勤した日の出来事や連絡・注意事項は、自分から尋ねて理解するなど、職員間の連携に努めていますか。

保育園は、これまで以上に保育ニーズが多様化し、職員構成又、勤務体制においても複雑化してきています。そんななか、日々の保育はクラスを担当する保育者だけでは到底成り立つことではありません。全員野球という話を聞きますがまさに保育園もその通りです。

保育所保育指針の「第11章 保育の計画作成上の留意事項6. 職員の協力体制」にも「所長、主任保育士、組を担当する保育士、また調理担当職員など保育所全体の職員が協力体制を作り、適切な役割分担をして保育に取り組めるようにする」とあるように、保育園内の職員の協力体制を強化するよう配慮していくことが大切です。職員一人ひとりが保育園という組織の一員であるという自覚を持ち、それぞれの力を発揮すること、また自分のクラスだけでなく園全体にも目を向け職員間の連携もうまく取り合うことが求められています。

職員間での連携をうまくとるには職員間の情報の共有が重要になってきます。クラス内の事だけではなく園児に関する事、保育の業務に関わる事、事務的な連絡、注意事項など情報の種類は様々です。これらすべての情報を職員全員が共有することが職員間の保育に関する共通理解を深め、日常の保育をスムーズに行うこと、延いてはよりよい保育へとつながっていくことと思います。ですから、欠勤した場合などは教えてもらうのを待っているのではなく、自分から進んでその日の出来事や連絡などがなかったかを尋ね、理解するよう心がけることがなにより大切なことと思います。

職員一人ひとりが日頃から積極的に職員間の連携を深めることに努めていけば協力体制がしっかりとでき、園全体に落ち着きがみられ、安心感のある雰囲気が作られます。そしてそれは子ども達の育ちにも大きく影響していくものです。

(海和)

6-9

あなたは、自分のクラスの教材や備品を、責任をもって毎日点検・管理していますか。

子どもたちは、ゆったりとくつろいだ生活環境の中で生き生きと動き回りそれぞれの興味の赴くまま、様々な遊びを日々の保育の中で楽しんでいます。しかし、そうした保育の環境は、昨日と全く同じではありません。保育室に関しては、子ども達が登園する前に、子どもの遊びの特徴を想定しながら、主要な部分を、丁寧に教

材、備品も含め安全点検をして受け入れ態勢を整えておきます。それは、申し合わせた事を記憶し点検するのではなく、点検項目を確立しておき指差しチェックのように、主要な部分、その周辺を目と手で、確実に確かめる事から始め、不備な箇所や危険が予想される状況の時は、処分・修繕し管理点検項目として、日々確実な点検を行う事が大切です。

子どもは幼若なほど未熟な行動のため、発達段階に沿った環境との関わりでの事故は、避けて通る事が出来ませんが、当然起こりうると考えられる事故に対しては、教材・備品の環境を整備する事は当然です。

また、子どもが興味や関心を持って思わず関わりたくなり、活動が発展しやすい教材や幼児が色々あり得る活動の中から、本当にやりたいと思い没頭出来る活動を見つけていく事が出来る事や、活動の中で発達にとって、大切な経験が豊かに得られるように様々な素材や用具を利用して描いたり、作ったり工夫し、音・形・色・手触り・動きなどを発見したり気が付いたり出来るよう、各年齢のねらい、内容でクラスでの教材・備品の種類、また季節ごとに必要な教材も変化を付けながら、準備し点検する事は保育士として、重要になり、責任を持っていかなければいけないことだと思います。

子ども達が使いたい教材やその活動に合わせた備品を安全に使えるよう、日々の点検管理はしっかりと行う事が、重要だと思います。

(海和)

6-10

あなたは、たとえ自分のクラスのものでなくとも、教材・教具などの管理が不備であれば、自らすすんで整えることができますか。

子ども達が保育園生活を豊かに過ごすためには子ども達にとって心地良い環境であることだと思います。環境の構成にもいろいろありますが、楽しく遊びを展開するためには遊ぶ為の教材教具等の準備が整っていることだと思います。保育園の職場はいろいろな職種により構成され又勤務体制も変則的であります。そして、保育

士はいかなる時も子どもの側を離れることができないことから全職員が一斉に揃ってミーティングを行うことが困難な状況にあります。求められる保育ニーズが多様化すればする程、保育現場は忙しくなります。しかし忙しいからといって教材、教具の管理をなおざりにして良いというものではありません。職場には、各職員の職務分担という役割が示されています。

職員一人ひとりが、自分の職務分担を理解し把握し自覚を高めていれば、管理も不備になることはないと思います。

しかし、職員自身に時間の余裕がなかったり、事前に保育の内容がしっかり立案されていなかったりした場合は、管理を乱してしまう原因にもなりますし、又不足している教材、教具又点検等についても気づかない事態が生じてしまいます。自分ひとりぐらい、という気持は禁物です。他者に迷惑をかけてはいけない、責任を果たすという心構えは基本的なマナーだと思います。仕事を進めるなかで、教材、教具の管理が不備であることがわかったならば率先して不備を補い、職務分担において責任者になっている人にも話をし、今後どの様な対処方法が良いのか相談するのも一つの方法ですし、あるいは職員会議、又園内研修等で提言するのも良いと思います。

守るべきことが守られていないことは気持の良いものではありませんが、不備を修復できる実行力はいずれは自分の力となっていきます。

(海和)

6-11

あなたの本来の業務以外に保育園にかかわる仕事を頼まれたとき、それも職務の一端と考え、責任をもって引き受けていますか。

今、保育園の役割は通常の保育園で行っている保育事業にとどまることなく、広い分野に亘り地域社会から保育園の機能の活性化が求められ、それに対応し子育て支援をしている状況です。

従って保育園は以前から求められてきました子育ての中心的役割を果たし、期待

に応えているといつて良いと思います。保育園の力は何と言っても職員の力量であり、各々の職員の持てる力を結集し、多方面にその力が発揮される環境づくりも大切かと思ひます。

近年は社会の状況の変化が早く、保育園をとりまく環境もそれに相まって、いろいろの形で変化がみられます。特に、保護者（通常保育、一時保育、子育て支援センター）の意識、価値観に変化がみられます。

多分、保育園利用者のみならず、世間一般にその傾向があると思ひられますが、変化している姿に賛否はありますが、現実を受けとめていくことも必要かと思ひます。ですから対応する内容も多岐に亘っていることから専門性が存分に生かされる保育園の組織づくりにも考慮しなければなりませんし、それぞれのセクションの活発化が必要不可欠になってきていると思ひます。

この様に変化し続けるなかですが、保護者も子どもの健全な成長を願うことについては保育園と同様です。同じ目的に向かってお互いに共感を持ちながら日々の保育を行い保護者との連携を強化することにより、真の保育の質、子どもの育ちが理解できるようになると思ひます。

これからのいろいろの面において多様化になっていきます。保育園での職員の働き方も、正職、臨時、パート、派遣（一時的）等、形が様々になってきました。しかし、どんな立場であろうとも、全職員には子どもの命を守り、子どもの発達を保障していく使命があります。

従つてすべての職員は、各自が自分のセクションを認識し責任を持つことはいふまでもありません。しかしながら保育の現場は常に動き、いつ何が起きるか想定できません。想定外の事態が発生した時、又職員の研修会の参加や、病欠、その他種々の事により、自分のセクション以外の仕事を担当する事になる場合もあります。そんな時は保育園の職員としてのみならず、一人の人間として自分の範囲を超えた仕事であっても頼まれたら気持ちよく引き受け、仕事を実践してこそ価値ある職員であり、人であると思ひます。

経験は一つでも多い方が良い、だからどんな仕事でも率先してやる気持、自覚が大切かと思ひます。必ずやすべて自分のものとなり、困難なことに突き当たつても

経験を生かし進むことができると思います。本物の専門家を目ざし、自分を高めようとする意識を持って、一步一步しっかりとした歩みの努力を重ねたいものです。

（海和）